



SAKAI DESIGN ASSOCIATION / 堺デザイン協会

VOL. 27
DEC. 2009
会報 S.A.D.A.

堺デザイン協会 設立 25 周年記念回想号

25 たかが二十五年 されど四半世紀

瀬戸内海の風と四国の土が育てた讃岐和三宝





堺デザイン協会 設立25周年に想う

理事長 岡村 筍

当時、堺市立勤労会館で発足してから25年になる。つい〜2年しか経っていない気もするけれど、事実四半世紀の時が流れている。その間世の中も人も随分変化した。

この会を生み育てていただいた初代理事長 川崎先生、垣村先生、老先生、金子先生、堺市の横山先生、明渡さん、アルス滝川さん、大醬の河盛さん、会議所鈴木さん・永年変わらず支えてくださった賛助会員の諸先輩を今更ながら感謝の念で思い返している。

デザインの本質は一体なんなのか。人が創りだす文化と言ええられないだろうか。建築や食文化などいろんな文化の歴史と比べるとごく最近出来た言葉かもしれないが、その本質は人が誰でも持っている感受性、即ち人間らしさなのではないのか。文化は人そのものである。人が創り出した文化の足跡が歴史となる。動物の本能を越え、衣食住全てにすこしでも心地よく、愉快に人間らしく暮らしていける仕掛けを創りだすこと。

人だけが文化を創造する。ことに日本人の感性は世界に誇れると確信している。感性は人それぞれ違うし、環

境にも左右されるが、人間から感性を取り除けばそこに文化は生まれてこない。人が人らしさを無くさないためにも人の感性を大切に守り育てることこそが今の世に大切な部分だ。幸い堺デザイン協会の25年は大した功こそないけれど、目に見えない人の心と文化にかかわってこられたことだけは、会員相互の誇れることであつたと想う。

政治も経済も大きく変わろうとしている現在、発会当初目指した文化人が一丸となって、それぞれの専門分野を乗り越えて、私の名誉や存在にこだわらず堺の文化を一束にするための話し合いができないか。デザインは幾つもの文化を横断できる格好のタイトルだ。「少しでも心地よく愉快に人間らしく」を目指して。



J. Okamura



SAKAI DESIGN ASSOCIATION / 堺デザイン協会



A. Ueno

◆ チェンジ ◆ ザ ◆ ロゴ

堺デザイン協会ロゴマークのデザイン変更が理事会において承認され、25周年を機に一新する事となり、ロゴマークはもとより、式典のサブタイトル「たかが二十五年されど四半世紀」まで、タイトルデザインプロデュースをしました。百年に一度と言われる世界的不況の今だからこそ、骨太で力強く、それでいて優しいをコンセプトに、曲線と直線の融合で構成し、相反する躍動感と安定感をひとつのデザインにまとめました。

頭文字Sには、環濠都市「堺」の名残である内川と土居川の流れをシンボライズし、堺の流通経済発展の象徴としました。SAKAI DESIGN ASSOCIATIONの頭文字を文法に基づいて、略語の末尾の「.」ピリオドにこだわり、他に類を見ない？文法に真摯な姿勢を表現しました。

新たな四半世紀へのスタートに際し協会会員の秘めたる熱き心とクールな頭脳は、この新しい旗印と共にこれからも、活躍し続けて行くことと決まっています。



「たかが二十五年されど四半世紀」

堺デザイン協会設立25周年

初代理事長、故・川崎浩氏と私の出会いは(財)大阪デザインセンター付設デザイン研修所の先生と第一期研修生(十九才)として、師事を受けた事が始まりであります。その縁が十二年後の一九八三年、堺デザイン協会設立準備委員会参画のきっかけとなりました。

同年十二月には川崎先生より設立総会議長を任せるとのお言葉を頂き、なんと嬉しいやら悲しいやら。先生曰く、「総会議長は理事長になれば何度でも出来るが、設立総会議長は組織に一回しかない記念すべき役どころである。」と、説得されたのであります。私、三十一才の寒い冬の日でありました。永年、幹事を勤められた故・垣村三平氏のアドバイスを受け無事責務を果たせましたのが昨日の事のように感じられます。設立後の一期目の初仕事は、金子誠之助氏の下、広報委員会SADAニュースの編集等を担当。二期目の事業委員会では、高木外氏と共に賛助会員各社への見学会やセミナー等の企画立案・実施を担当し、設立十周年記念式典では司会もさせて頂きました。

その後、協会と共に順調に歩んで参りましたが、七年前に、クモ膜下出血で倒れ馬場記念病院へ緊急入院。クリックピング手術をうけ、生死の境を彷徨いましたが無事に帰って参りました。速やかに搬送して頂いた救急隊員の方々や、優秀な脳神経外科医療チームに心より感謝します。奇跡的にデザイン業界に、復帰できましたが通院治療に時間を要し協会関係者の皆様方には、ご心配とご迷惑をお掛けしました事を、この場をお借りし改めて、お詫び申し上げます次第でございます。

そして設立時から四半世紀の時が流れ：私五十六才の冬、特別プロジェクト担当理事として、岡村筍氏・岡村哲伸氏・福田繁氏・伊藤浩平氏と共に設立25周年記念事業実行委員会を組織し、記念式典のデザインプロデュースを取り仕切らせていただきました。

二期目より二期二十四年に渡り理事として二代目理事長・岡村筍氏と共に身も心もデザイン普及活動に捧げ、機会在るごとに、振興活動にも務めて参りましたが三歩進んで二歩下がる。

記念事業実行委員長

デザインプロデューサー 上野あきら

このように地味ではございますが確実な歩みを繰り返して、四半世紀を迎えたのであります。

二十五年の歳月には、数え切れないほどの出来事があり、新しい出会いや色んな別れ、それぞれに幾つものストーリーがありました。

堺デザイン協会設立時より歴代堺市長(故・田中和夫氏、幡谷豪男氏、木原敬介氏)に顧問をお引き受けいただいているという事は、デザイン活動に對し造詣深く、その必要性を充分ご理解頂いている証であります。そして新市長 竹山修身氏にも快くお引き受け頂けるものと確信しております。

政令指定都市(二〇〇六年四月)であり、環境モデル都市(二〇〇九年一月)として、日本の都市創りのリーダーとしての「堺市」、自由都市「堺市」の熱き心の市民の中から産声をあげた、堺デザイン協会SADAは、これからも自由な発想で我が故郷「堺市」の羅針盤となり、共に航海を続けて参ります。

SADAロゴタイプも25周年を機に新デザインの制作、広報SADAの誌



左：北側一雄氏(衆議院議員) 右：上野あきら(SADA 理事)
2009年5月23日現在 於：丸三樓 雪蔭庵(式典会場)

面デザイン刷新・充実(上野あきら)。25周年記念マークの制作、ホームページの刷新・充実(福田繁氏)。「堺もん」ブランドの立ち上げ(伊藤浩平氏)等、これからも地域に根ざし、時代に即応したチャレンジを進めて参ります。世界的大不況の荒海に放り出された日本ではあります、こんな時こそ小型船SADA号の利点を活かした航海術で乗り越えて参る所存です。

最後になりましたが、永年に渡りご支援とご協力を賜っております賛助会員各位に心より感謝申し上げます。

又、式典当日お忙しい中、ご出席賜りました衆議院議員 北側一雄氏、堺市長 木原敬介氏、堺市議会議員 加藤均氏、堺市議会議員 土師純一氏、堺市役所、堺観光コンベンション協会会長 和田貞夫氏 はじめ、各堺市外郭団体ご代表、(協)関西デザインオフィスユニオン 理事長 越田英喜氏 並びに、各デザイン団体ご代表に厚く御礼申し上げます。

「25 平和・人権・環境ポスター」コンペ

本年度の事業として推進しております「堺もん」ブランド化事業との連動も踏まえ、堺市内に在住・通学する現役中学生を対象に「平和・人権・環境ポスターコンペティション (PEACE & ECO POSTER COMPETITION)」を開催いたしました。堺デザイン協会として、初めてのコンペ開催となります。

このコンペは堺デザイン協会の設立と同じ1983年に堺市が「非核・平和都市宣言」を行ったということから、25周年事業デザインプロデューサーの上野あきら理事が企画・立案。テーマを「平和・人権」として、子供たちを対象にポスターコンテストを行うという内容で、そのプランを基に実行委員会ですらに企画を練りこみ、時代性を踏まえてECO(環境)もテーマに加え(福田繁理事提案)しました。

社会的問題となっている環境問題や、身近なものとしてのいじめ・学校の荒廃など、とても大きなテーマであり、どこに焦点を絞るかと言ったことについてはかなり難しいポイントであったと思います。

また事業のスタートと企画のまとめ、各関係団体との調整などに時間がかかり、スタートが遅くなってしまい、実質の作業期間がほとんど春休みだけになってしまいました。その為周知が行き渡らず、ご参加いただいた中学校が限られたことは、次回に向けての反省としたいところです。

しかしそのような状況にも関わらず、堺市の人権局を始め教育委員会・市長公室など関係各所の皆様から貴重な助言やご助力をいただき、おかげさまで10校から125点もの作品の応募がありました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

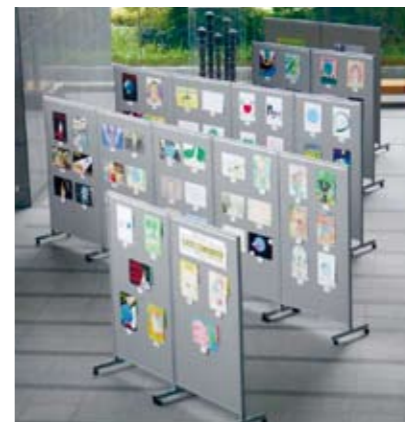
審査は堺デザイン協会の理事長を始め、実行委員会のメンバーで厳正なる審査を行いました。各審査員は本当に選考に困るほどの力作ぞろいでありましたが、限られた賞に従って各賞を決定して参りましたが、結果は下記に示すとおりであります。それぞれの学校の美術担当の先生方の熱心なご指導によって、学生たちの感性豊かな素晴らしい作品が生まれたものと敬服いたします。

私が作品を受け取りに各中学校に伺ったときに感じたことがあります。それはその中学校に漂う空気です。それぞれの学校がそれぞれ違う空気を持っていて、それがそのまま生徒の感性や作品にも反映しているように感じられました。非常に明るい空気の学校もあれば、落ち着いた雰囲気や曇り学校もある。また、出会う中学生も雰囲気が違う。大変楽しい発見と経験でした。私事ですが、中学校2年生の息子がおりまして、ぜひともこの学校に入れたかったと感じた学校もありました。大きな声で挨拶してくれ、正門前で車から下りて門を開けようとする、10mも前から「開けまーす!」という駆け寄ってくれた学生もいました。その学校は出会う学生みんながそうでした。ほんとうに、心がうきうきいたしました。そんな事がいくつもありました。中学生生活を楽しく、有意義に過ごしているんだなと感じました。こんなかわいい子供たちが荒んで行くのは誰のせいなんでしょう……さて、冒頭に書きましたようにこの

私が作品を受け取りに各中学校に伺ったときに感じたことがあります。それはその中学校に漂う空気です。それぞれの学校がそれぞれ違う空気を持っていて、それがそのまま生徒の感性や作品にも反映しているように感じられました。非常に明るい空気の学校もあれば、落ち着いた雰囲気や曇り学校もある。また、出会う中学生も雰囲気が違う。大変楽しい発見と経験でした。私事ですが、中学校2年生の息子がおりまして、ぜひともこの学校に入れたかったと感じた学校もありました。大きな声で挨拶してくれ、正門前で車から下りて門を開けようとする、10mも前から「開けまーす!」という駆け寄ってくれた学生もいました。その学校は出会う学生みんながそうでした。ほんとうに、心がうきうきいたしました。そんな事がいくつもありました。中学生生活を楽しく、有意義に過ごしているんだなと感じました。こんなかわいい子供たちが荒んで行くのは誰のせいなんでしょう……さて、冒頭に書きましたようにこの



ポスター展示：入選作品



ポスター展示：堺市役所本館1階エントランスホール



K.Ito

コンペは「堺もん」ブランド化との連動も視野にいれております。現在「堺もん」は商標登録申請中で、その商品として入賞作品を展開していきたいと計画しております。学生たちにも自分の作品が商品となって流通する「デザイン」というものの仕組みを知ってもらいたいと言ったことも、堺デザイン協会の理念の一つであるデザイン啓発につながるものとしております。もちろん、賞の選考基準もそれに基づいています。「堺もん」事業につきましては、別の機会にまとめて発表したいと存じます。

25周年記念式典会場での表彰式を予定していましたが、折り悪くインフルエンザ騒ぎで学校が休校となり学生たちが外出禁止となったため、代理での表彰式となったのが大変残念ではありましたが、堺市役所内での展覧会に大変ご尽力いただいた堺市人権局の計らいで「堺市立平和と人権資料館」においても入賞作品の展示をいただきました。その最終日に改めて、表彰式を行うことが出来ました。それぞれの力作を前に、皆さんの笑顔が見れたことは本当に嬉しいことでした。

また、この機会だけに終わらず、ぜひ次回も開催して欲しいとの声も先生方からいただきました。協会としましては必ず実現していきたいと存じます。ご協力ありがとうございました。

Peace & Eco Poster Competition "Prize-winning Work"



周年記念コンペ 審査員

- 堺デザイン協会 理事長 (財)大阪デザインセンター評議員 岡村 筍
- 堺デザイン協会 副理事長 堺市展覧会委員 岡村 哲伸
- 堺デザイン協会 理事 (財)大阪デザインセンター評議員 上野あきら
- 堺デザイン協会 理事 (財)大阪デザインセンター評議員 福田 繁
- 堺デザイン協会 理事 伊藤 浩平

<p>■ 堺市長賞</p> <p>「大切な物」 堺市立美原西中学校 3年 原 胡桃さん</p>	<p>■ 堺デザイン協会理事長賞</p> <p>「Smile!」 堺市立登美丘中学校 3年 北田江里さん</p>	<p>■ 堺市教育長賞</p> <p>「笑顔」 堺市立美原西中学校 3年 長尾香菜子さん</p>
---	--	--

賛助会員賞

<p>■ アルスコーポレーション賞</p> <p>「エコ」 堺市立美原西中学校 2年 加藤尚子さん</p>	<p>■ 和泉利器賞</p> <p>「かっこわるい」 堺市立野田中学校 3年 山田聡美さん</p>	<p>■ 大阪ガス賞</p> <p>「環境」 堺市立三原台中学校 1年 杉山由衣さん</p>	<p>■ ばいこう堂賞</p> <p>「clover ポッポ」 堺市立中百舌鳥中学校 3年 石川 忍さん</p>	<p>■ 堺商工会議所賞</p> <p>「助けてください この間から」 堺市立登美丘中学校 1年 中井公美さん</p>
---	---	--	--	---

副賞

- 堺市長賞 デジタルカメラ、エコバッグ
- 堺デザイン協会理事長賞 iPod shuffle 1GB、エコバッグ
- 堺市教育委員会教育長賞 ポスターカラー24色セット、エコバッグ
- 堺デザイン協会賛助会員賞 図書カード (3000円)、マグカップ

受賞作品のイラストをあしらったエコバッグ

受賞作品のイラストをあしらったマグカップ

25周年記念式典を終えて……



式典会場：丸三樓 雪陵庵



堺市長 木原敬介氏ご挨拶（平成21年5月23日現在）

話は2年前にさかのぼる、2007年7月上野理事より25周年式典はドーンと行こうと云う話が出た。そこで岡村哲伸、上野あきら、伊藤浩平、そして私の4名で25周年記念式典実行委員会なるものを立ち上げた。

初めのうちは、理事会のついでの会合で充分だったが、2008年も秋風が立ち初めると、あと1年も無いと、全員少し慌て出し、せめて月2回は集まろうと云う事になった。そこで伊藤理事の事務所を利用してもらう事になった。2009年2月ともなると月2回が毎週の委員会となった。何をそんなに頻繁にと云えば、式典の会場が2転3転した事だろう。そして一番の難題が……。メインイベントとして堺の中学生を対象としたポスターデザインコンペ「平和」「人権」「環境」「ECO」に対するメッセージを込めた作品を募集した。内心応募が少なかったらどうしようと思っていたが、メ切りには百を超えるポスターが集まり委員一同、大喜びしたものだ。厳正な審査を繰り返し、堺市長賞を初め賛助会員賞まで

上位8作品を決め、自分の作品が形になれば子供達も喜ぶだろうと、その作品をエコバッグとマグカップに印刷するために発注した翌日の事……。例のインフルエンザ騒動で、表彰式に中学生の出席は自制しろとのお達しが……。！しかたなく、亦一から式典のタイムスケジュールを練り直す事となった。色々アクシデントはあったが、快晴にめぐまれた5月23日。

仁徳天皇陵西畔・丸三樓にて記念式典の日を迎えた。先立ち初めに第26回通常総会も無事終了、午後2時よりの式典となった。第一部ポスターコンペ表彰式。代理人に賞状と副賞が渡された。

第二部「見直そう都市の遺産」と題して、桃山学院大学講師柴田正己氏の記念講演が行われた。現存する明治、大正の建築物をスライドを交えながら、堺や大阪の現状をとつとつと説明され出席者一同なる程と頷いていた。

第三部堺市長木原敬介氏（21年5月現在）を初め堺市教育委員会教育長等のご来賓の祝辞を頂き賛助会員への感謝状と記念品贈呈となり、午後4時、第四部



S. Fukuda

の懇親会がスタートした。そして、実行委員会が初めからこだわったお土産の入れ物・風呂敷を、お渡りする時間となった。

中身は、長年協会とおつき合い頂いている賛助会員アルスコーパーション（株）様、（株）和泉利器製作所様、大阪ガス（株）南部リビング営業部様、ばいこう堂（株）様、堺商工会議所様からのご好意によるものです。

当紙面をお借りしてお礼申し上げます。尚、デザインプロデューサーの上野あきら理事には、実行委員会発足準備から、2年の長きに渡り、そして式典、式典終了後の来賓へのお礼廻りなど、堺デザイン協会への思い入れに対し、委員一同感謝。



式典：万歳三唱



堺デザイン協会 理事長 岡村 哲



明治建築研究会代表 柴田正己氏 講演会

25周年記念ロゴマークデザイン

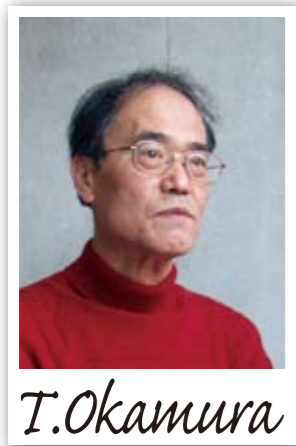
制作：福田 繁



25周年記念ロゴマークを印刷したお土産風呂敷

【DESIGN CONCEPT】

堺デザイン協会25年目の新たな旅立ちのイメージをアピール。25周年を長いリボンが延びて、鳩とともに地球を廻るように、翔んでゆく。環境に配慮していくためにイメージカラーは、自然と共存し、心を癒すやさしいグリーン。デザインコンセプトは、ストレートに25周年を伝えたく25の数字に重きをおいた。



T. Okamura

「たかが50年」「されど半世紀」

副理事長 岡村 哲伸

堺デザイン協会設立25周年記念式典を大仙陵古墳の傍らにある、近代堺の歴史を伝える「丸三樓 雪陵庵」で5月23日に開催いたしました。

第一部では、先立って5月5日から12日の8日間、堺市役所本館一階ロビーに展示した、堺市内在住の中学生を対象に公募した「平和・人権・環境ポスターコンペティション」の表彰式と、第二部 柴田正己先生の記念講演「見直そう都市の遺産」では、近代建築の調査、研究と保存の必要性をスライドを交えてお話頂きました。

共通して、次世代に伝える歴史・文化の保存と伝承、そして、新たな創造へと結び、堺デザイン協会の大切な役割を再認識できたこと、若い世代の積極的な参加を得て、「たかが50年」「されど半世紀」への足取りを確信できたことです。



SA.D.A.'s Member

AKIRA UENO
DAISUKE KISHIMUNE
ETSUKO OZAKI
HIROSHI IWATA
JUN OKAMURA
KOUHEI ITO
MASAAKI SAKITA
MASAHIKO KUROKAWA
REIKO MAEHARA
RYO UENO
SHIGERU FUKUDA
SHIZUKO NISHII
SHOUZOU OKAMURA
SOTOSHI TAKAGI
TESSHIN OKAMURA

SA.D.A. / VOL.27 編集後記 上野あきら

25周年記念事業を小さな組織ではありますが、無事終える事が出来ました。偏に皆様方のご協力、お力添え有ったの結果と今更ながら感謝の気持ちで一杯でございます。このような事を申し上げております間にも来年の足音が、直ぐ傍までやって来ております。暮れの押し迫った中、私達と共に、この25年を振り返って頂きありがとうございました。

来春号は会員の WHO'S WHO!あの人、あの方は、どのような、お仕事や活動をされているのか? 気になる号になるのでは・・・を予定しております。どうぞご期待ください。それでは、おすこやかに新年をお迎えになられますよう、お祈り申し上げます。

■ 堺デザイン協会 広報担当理事：上野あきら / 伊藤浩平 ■ 表紙デザイン：上野あきら
■ 設立 25 周年記念式典写真撮影：福田 繁 ■ 平和人権環境ポスター写真撮影：伊藤浩平 / 上野 亮 ■ 表紙商品写真撮影：上野 亮